

## 校外学習時の事例 ～スクールバスの追走～

### 発生時の状況と経過

てんかん発作時の坐薬挿肛や酸素吸入の医療的ケアを必要とする児童が校外学習に参加する際、保護者がスクールバスの後ろをついていくことになっていた。その日は、その児童が所属している学級以外にも、校外学習へ出かける学年があった。同じような時刻にバスが出発したため、保護者が医療的ケア対象児のスクールバスではなく、違うスクールバスについて行ってしまった。そのため、到着が遅れ、発作時の酸素吸入ができない状況(約25分間)があった。

### 発生時の対応と処置

保護者が異なる到着地についてしまい学校に連絡があった。その後、校外学習の場所を再度確認し現地に到着した。

### 考えられる原因や背景

- ・保護者にスクールバスのナンバーを伝えていなかったこと
- ・同時刻にほかの学年もスクールバスで校外学習に出かけることを伝えていなかったこと

### 再発防止に向けた対策・改善点

- ・事前に保護者とスクールバスのナンバーを確認すること
- ・同じ日にスクールバスを使用する学年はいないか確認すること
- ・保護者がスクールバスを追走する場合は、スクールバスの携帯電話を持っていき番号を事前に保護者に伝えておくこと

## ポイント！

- 事前に紙面で保護者と目的地や走行ルートをしっかり確認しておくこと。(指導医より)
- 保護者がついてくると思いこまず、発車時には保護者に確認しましょう。
- 交通渋滞や信号のタイミングで離れることもあるため、途中の連絡体制も考えておきましょう。